

## ライフスタイルに合わせた生き方

私は本大学大学院を修了した後、博士後期課程に進学し博士号（小児発達学）を取得しました。現在は複数の教育現場で臨床心理士や非常勤講師として働いています。その内の一には本大学の進路支援センターも含まれています。心理士の常勤勤務は難しいと言われていますが、非常勤勤務として働くことは私のライフスタイルに合っています。なぜなら、現在高校生になる息子が二人おり、子どもが成人するまでは家庭を中心とした生活を送りたいと考えているからです。私が結婚した時、当時働いていた銀行を「結婚退職」しました。その頃の銀行では、結婚退職がそう珍しくもなく、むしろ、結婚後や出産後も働いている一般職の女性は少なかったように思います。社会全体に結婚後も働くことを選択する女性が増え始めた頃、私の子育ても一段落していました。そうした背景があつたせいも、大学院入学当初は臨床心理士として働きたいというよりも、二人の子どもを育てながら子どもへの心の発達に興味があつたこともあり、心理学を学びたいという思いの方が強かつたです。同期は一〇名おり、半分が学部から進学した現役の院生と、半分がさまざまな経歴を持つ社会人入学の院生でした。多くの同期の院生達は、土日や夕方以降の勉強会などに積

極的に参加していて、周囲の院生をうらやましくも思いました。私が、私のペースがあるのだと常に自分に言い聞かせながら二年間学びました。当然、同期よりも学ぶペースも量も少なかったと思います。ですので、どうしても二年間では自分に納得がいかず、引き続き専門的に学びたいという思いが強くなりつてきました。先生方に進路を相談して、博士後期課程への進学を決めました。中でも当時よく耳にしていた「発達障害」に関して、心理的な支援の理解だけでなく、医学的な理解を深めたいと思い、進学を決めました。

進学先は、子どものころの専門家を育成するための教育研究機関として設立された「大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所」にしました。本研究所は平成二十一年度に三大学の医学系研究科を母体として社会心理学・教育支援学の研究者を招き、文理融合型の共通教育プラットフォームを提供し、こどものこころの障害の原因解明と新規治療法の開発研究を行っております（※平成二十三年度からは、認知行動療法による治療を試みているわが国唯一の機関である千葉大学と、子どものうつ病や養育者・兄弟支援に対して教育研究を推進している福井大学が参加し、五大学による連合小児発達学研究所へと改組しました）。博士後期課程では、一年次は生命科学・医療・社会心理系の講

## コラム

義（他大で開講される導入科目は遠隔会議システムにより受講）、二年度は各大学で開講される演習を集中的に受講します。附属病院を併設し医学系研究科を母体としているため、子どものこころの発達と障害について臨床を重視しながら脳画像や認知機能検査等を用いて脳科学的な視点から理解を深め、発達障害・児童期統合失調症・児童期気分障害などの主要な児童思春期の精神疾患脆弱性遺伝子を中心に脳と心の発達を科学的基盤に基づいて理解することがメインでした。私が直接関わった研究は、自閉症スペクトラム（発達障害）の社会的認知に関する研究で、博士論文は、「自閉症スペクトラム児をもつ母親の自閉症広域表現型と社会的認知との関連」です。簡単に言うと、発達障害児／者の認知の特性の一つとして、複数の情報を統合し判断することに困難な傾向がみられるといったことを研究しました。

本研究科の同期は一二名おり、その内一名が社会人、大学教員、臨床心理士、言語聴覚士、小中学校教諭、研究員、自治体職員でした。在籍中の先輩後輩を含めると、医師、看護師、作業療法士とさまざまな分野で活躍されている方ばかりで、大変刺激があり多くの事を学べる環境でした。研究科に所属している先生や院生のほとんどの方が英語が堪能でした。ゼミや院生同士の自主勉強会では、国際学会のプレゼンの練習や翻訳版がない検

査用具での心理検査の実施やその結果の検討などがあり、英語が得意でない私にとってはかなりの苦戦を強いられました。博士課程在籍中も心理臨床の仕事に関わっていたという思いが強く、二年度から仕事に復帰しました。その為、仕事と研究、そして家のことで手一杯になり、残念ながら博士課程における英語に関する多くの機会は諦めざるを得ませんでした。博士課程を修了して一段落した現在、次の目標の土台作りのために英語に力を入れていきます。最後になりましたが、現在の私があるのは日々の家族の理解と支えがあったからです。そして、

多くの先生方や先輩、同期、後輩や知人のご厚意と存在が何よりも大きな支えとなりました。この場を借りて、皆様には心より厚く御礼申し上げます。

（二〇〇九年度人間科学研究科修了生 長谷川 恭子）



## A氏との起業戦記

現在、私は大阪経済大学大学院で主に人間の身体機能について研究しています。大学時代は経営学を学んでいましたが、興味のある新たな学問に挑戦したいと思い、入学を決意しました。今振り返れば私にとって一番貴重な体験をした時期は大学生時代であったと思います。高校時代の友人が華やかなキャンパスライフを過ごしている傍ら、私は現役での合格を果たせなかったため予備校に通っていました。当時は□を用いた事業が盛んになってきており、スマートフォンゲームやSNSの創成期を迎えていました。それを代表する企業と言えば、藤田晋（サイバーエージェント）、笠原健治（mixi）、田中良和（GREE）、前澤友作（ZOZOTOWN）らが青年企業家として名前が挙がりました。そんな彼らを夢見て、私も□設備の整った大学で経営学を学び、いずれは□を用いた画期的な事業を設立したいと考えていました。

一年後、志望校に入学することができました。その大学では一年生のうちから少人数制のゼミを必修授業としていました。そのゼミ内でA氏と出会いました。A氏は中学を卒業後、美容師として大学に入学するまで働いていた人生の先輩でありました。夢は美容室を作ることで、大学には経営とはどういうものかを学びにきていまし

た。ここまではよくあるような話ですが、A氏は私の想像を超えるような発想と常に独自の思い描いたビジョンを持っていることで私はいつの間にか魅了されていました。具体的に言うと、入学と同時に証券研究会に所属していました。これはA氏自身、勉強に時間を費やしていたため、開業資金を貯めるためのアルバイトをすることができませんでした。そこで証券研究会の定期討論会にだけ参加して、市場の動きや買われそうな銘柄の情報を手に入れていました。実際に起業するまでの数年間で開業資金を貯めることに成功したことには驚きました。さらに、起業を目指す有志の会に参加して人脈を広げたり、別の大学で起業を目指す人対象の実践型講義に参加もしていました。そんなA氏を目の当たりにし、私は色々なことを学びたいと思い起業の手伝いをさせてもらうことにしました。

三回生になると、A氏は来年度にサロンを作りオープンさせる計画を立てていました。それに伴い、私には事業計画書の作成を依頼されました。依頼されたのはいいものの、何もわからない私はひたすらネットの情報や本を読み漁り、事業計画書らしいものを作り続けていました。その中で一番苦労したのが、美容業界がどのような業界であるかわからないことでした。サロンの良し悪しを選ぶ際の顧客の優先順位がわからず、どのようにマー

ケティング活動を行えばいいのか。さらに企業ライフサイクルをみた時、これ以上利益が見込めないとされる成熟期を迎えたらどのようなドメイン（事業領域）を再定義できるのか全く想像できませんでした。しかし打ち合わせを重ねることにより、A氏のビジョンと全く美容業界を知らない私の考えを合わせることで今までにないサロンの構想が出来上がっていききました。大きなヒントを得たのは街頭調査でした。質問項目に「サロンに自ら進んで行くにいくと思う理由は何ですか」という内容を設けたところ、その返答には「サロンに行くまでにある程度おしやれにしないと周りの目が気になる」、「知り合いに見られるのが恥ずかしい」、「待ち時間が長い」という意見が特に多く書かれていました。そこからビジョンとして「ユニバーサル」を軸に置いた完全予約制の個室サロンを作ることでした。多くのサロンが薄利多売のようなビジネススタイルをとる中、私たちは一人一人を大切に作るスタイルに決定し、それは業界の盲点をついていると確信を得ました。そこで周りの意見と評価を知りたくなり、複数のビジネスサロンに出場しました。ビジネスコンテストには私たちと同じように起業を目指す人達がプレゼンテーションをしていました。普段、出会えない人と交流を持てたこと、実際に起業して現役で活躍している先輩から意見をいただけたことで大きな自信

に繋がりました。こうして開業の期限に迫られる日々を過ごしているうちに一年が経っていました。

四年生になり、A氏は学生起業家としてスタートを切りました。共に力を合わせて実現させたことに私も心から喜びました。その日から三年ほど経った現在、A氏は店舗を増やしたり、買収を行って株式会社化し、成長を続けています。日々新たなことに挑戦するA氏に憧れ、私も人事関係の仕事を扱う事務所を作りたいと思い、大学卒業後、経験を積むために介護事業を行う会社の人事部で仕事をしました。その時に目標に置いていた人事に関連する資格を取得し、あとは自信が付くまで職務経験を積もうと考えていましたが介護現場での入居者の方々、年々歩くことが困難になる私の祖父を見た時に「人間の身体について勉強して、役に立ちたい」と思うようになりました。これまで人間の身体について学んだことが無く、不安でありましたが、A氏のように何も無いところから「挑戦」したいと思つて今に至ります。数年前に想定したビジョンと現在では大きく乖離していることは認めますが、外部要因によりビジョンが変わることは多々あります。その中で何が正解で何が間違っているかは誰にも判断できないので常に目標を意識して前に進んでいきたいと思えます。

（人間科学研究科人間共生専攻 小泉 智也）

## 不幸が教えてくれたこと

IgA腎症という病気は、簡単に言うとうとIgAという免疫抗体が腎臓内の細胞に沈着（抗体は通常、病原体を退治する物質）することにより腎臓を病原体として攻撃してしまう。そういう病気です。

攻撃することにより腎臓に慢性的な炎症が起こりま

## 「慢性糸球体腎炎」

その中の一種に「IgA腎症」があります。初期症状としては蛋白尿、血尿、浮腫などがあり、治療による副作用もあります。成人発症の十年間で透析や移植が必要な末期腎不全に至る確率は十五〜二十％、二十一年間で約四十％弱であるとも言われています。IgA腎症は現時点では即効性のある治療方法はなく、対症療法が中心で、病因ははっきりとわかっていません。特定疾患（難病）にも指定されており、平成二十七年一月一日から難病医療法「難病の患者に対す医療等に関する法律」により、助成対象にもなりました。

難病の基準は、

- ・ 発病の機構が明らかではない
- ・ 治療法が確立していない
- ・ 希少な疾病である

## ・ 長期の療養を必要とするもの

であり、その中でも指定難病に分類される病気が助成対象になります。

私は二十三歳の時に「IgA腎症になりました。というより、二十三歳の時にそう診断されました。本当は十五歳くらいからなっていたのかもしれないと医者に言われたからです。今年で二十七歳なので病歴四年半くらいになりました。なぜそう医者に言われたかというとうと、腎臓という臓器は「沈黙の臓器」と言われていて、病状がある程度まで進行しないと異変を起こさないからです。そして、異変に気付いた時はかなり進行している段階ということになります。では、どうやってわかったかというとうと、検尿検査です。僕の場合は大学での検尿検査でした。

私は高校を卒業し二年間専門学校へ行き、卒業後通信制の大学へ行きました。そこでいろいろ勉強していましたが、どうしても保健体育の教員免許が取得しなかったため、大阪経済大学へと三年次編入学しました。なので、入学後すぐの検尿検査で再検査となり、その後の検査入院で発覚しました。再検査になった後に少し放置していた、その末に赤黒いコーラ色みたいな尿が出ました。

「あ、これは死ぬやつ。」

と、直感が働きました。そして再検査をして、検査入院になったというわけです。検査入院では腎生検という

検査をします。簡単に言うくと腎臓の組織を採取して検査することです。三日くらいで検査は終わり、最終日に検査結果が出ました。そして、検査の結果「IGa」腎症と発覚したのです。

IGa腎症は診断時に四つの段階に分かれます。

- ・ 予後良好群：透析療法に至る可能性がほとんどないもの。
- ・ 予後比較的良好群：透析療法に至る可能性が低いもの。

- ・ 予後比較的不良群：五年以上二十年以内に透析療法に移行する可能性があるもの。

- ・ 予後不良群：五年以内に透析療法に移行する可能性があるもの。

僕は右記でいくと予後比較的不良群に分類されます。

「検査の結果、「IGa」腎症であることがわかりました。その中でも予後比較的不良群に属されます。」

そう言われた記憶があります。自分自身である程度調べていたので、予想はついていましたが実際に言われると辛く苦しいものでした。なぜなら、腎臓病は食事制限と運動制限がつきものだからです。

腎臓は、体の中の（血液中の）老廃物や余分な水分を尿として体外に排泄する仕事をしています。あとは血圧を調節したり、血液のpH（酸性・アルカリ性の程度を

表す単位）を一定に保ったり、からだに必要ないろいろな成分を作ったり、生きていくために大切な仕事をしています。腎臓が悪くなりこれらの働きが出来なくなってしまうと、老廃物がたまって、体全体に悪い影響を及ぼします。余分な水分もたまりむくみが出ます。吐き気や頭痛、食欲低下、からだがだるくなったり、血圧が上がったり、貧血になったり、骨がもろくなったりしてきます。例えば、たんぱく質を多く摂り過ぎると、老廃物が多くなって身体に大きな負担をかけます。この老廃物は体から自然に出て行くことはなく、腎臓のみがこの老廃物を除去し排泄できません。また、ナトリウムの排泄機能も弱くなってくるので、塩分を抑えることも大切になってきます。なので、食事制限は弱った腎臓を守るために必須になってきます。さらに、過度の運動も避けなければいけません。運動をすると汗をかき、血液循環を促します。その結果、腎臓に大きな負担を与えるためです。そして、腎臓は2つあるのに片方ずつ悪くなることはなく、2個同時に同じように悪くなってしまいます。しかも、一度壊れた腎臓は元には戻りません。さらに悪いことに、腎臓病を放っておくとだんだん悪くなるのではなく、加速的に悪くなってしまいます。

IGa腎症と診断された時、私は教師はやめたほうが良いと言われました。運動制限がある中で保健体育の教師

は厳しいものがあると医師が判断したからです。保健体育の教師になりたくて、編入学までして大学に入って、これからって時にそう言われました。これで、夢も希望も何もかも失ったようでした。ここからの大学生活は私にとつて苦痛でした。

それでも私は大学に行く意味を二つ学びました。大学には一生懸命勉学に励んでいる学生もいますが、それは一部です。七割程度の学生は大学に遊びに来ているように私は見えていました。その中で、夢もなくなつて、希望すら見えなくて、それでも学校に行かないといけないのは本当に地獄でした。両親に学費を払ってもらつていたので退学はできませんでした。大学に行く意味を考えながら毎日通つていました。夢も希望も潰えた私には大学の悪い部分が見えるようになっていました。大学は何のためにあるのか。大学に行く意味はないものと思ひました。それが、私が大学に行つて学んだ一つのことです。でも、それが全てではありませんでした。大学在学中に様々なことをしました。大学には何も自分を縛るものはなかったのです、自由に行動できました。その一つにボランティア活動があります。東日本大震災への災害、復興支援ボランティア、台風による災害、復興支援ボランティア。さまざまなボランティア活動をさせてもらいました。時に講義を休みこともありましたが、講義を休んで

までボランティアをしていたのですから、私も先ほどの七割かもしれません。でも、大学に行かなければできない経験だつたと思います。そのおかげで、つながれた先方もたくさんいらつしやいます。大学でゼミ生でもない私を気にかけてくれる先生がいたのは私にとつて本当にありがたいことでした。社会に出ると、ある程度は仕事に縛られます。でも、大学にはそれがありません。学びながら、遊べるし、好きなことができます。行きたい時に外の世界に自由に行くことができます。なので、自分のしたいことが精一杯できます。勉強でも、遊びでも、社会活動でも。それは自分の意思次第で何をするか自由に選択することができるということです。大学は自分の人生を深く考えることができます。それが大学に行つて学んだもう一つのことです。そう思つて行動したのは「腎臓」になって一年後くらいです。その一年の間に出会ったくれたいろいろな人が私をそういう考えにしてくれました。それは、何かが変わつたというよりは、全部受け入れたという感じです。

自分が特定疾患であること、トイレが近くなつたこと、お酒飲んだらむくんでしまうこと、体を気遣うようになつたこと、過度の運動もしてはいけなくなつたこと、好きなものを好きなだけ食べてはいけなくなつたこと、少しからだがおかしいと思つたら休憩しないと

なったこと。そういう現実を受け入れました。そして、それが自分の人生だということを理解しました。今は治療も終わっているし、病状も安定しているので、普通に仕事して、普通に飯食って、普通遊んで、ほぼ何も変わらない毎日です。

唯一変わったことは、生き方です。病気になる前より、今の方が自分の人生が色濃く、夢中に生きています。年を重ねたということもあるかもしれませんが、こういうからだになって本気で絶望したし、夢も希望も閉ざされたけど、また次の夢も希望もできました。それはいろいろな人に出会って、いろいろな人に助けられ、いろいろな人に愛されたからです。本当に人に愛されるってことをそれまでは知らなかったです。というか、知ろうとしなかったです。その気力もなかったからです。いろんな愛情を知った時は、抑えられないものがこみ上げてきました。私のことをこんなにも強く想ってくれている人たちがいることに驚きました。そして、その深い愛情で満ち溢れた時、人は感動するということを知りました。本気で愛すること、本気で想うこと、その人のために想って生きること、自分をすべてさらけ出して自分の魂をむき出しにして使うこと、家族を、仲間を、友達を、恋人を想うこと、愛情は優しさだけじゃなく、その人のためなら鬼にでもなるということ。そういうことを学びました。そ

ういうことを感じました。そして、愛されているっていうことを実感しました。だから、僕は生き方を変えることができました。終わったと思っていたけど、また始まりました。

そして、僕もそういう環境で生きていたいと思えました。だから、僕は今沖繩の古宇利島と言う場所で、仲間たちと生きています。

今は株式会社の専務取締役をやる傍ら、次は自分が代表になるお店作りにとりかかっています。いずれは、この病気の世界で役に立てるようになっていたいと思っています。なぜなら、それが僕にできる恩返しかなと思うからです。

僕の生き方が変わって四年半、今では病気に対してこう思っています。

「病気になってなかったら、ここにはいなかった。病気になってなかったら、出会えてなかった。病気になって辛かったことなんて数え切れないくらいあったけれど、いろんな愛情を、いろんな世界を、いろんなことを、仲間や、家族や、いろんな人に教えてもらえたから、与えてもらえたから、病気になったことを、有難く思うのです。病気になった自分を、好きでいることができるのです。」

一緒に生きていきたい人、一緒に仕事していきたい人、

誰と生きていくのか、誰と仕事をしていくのか、それが社会に出て重要な事です。人に魅了されたなら、そこに飛び込めばいいです。間違えてもまたやり直せばいいのです。突然不幸がやってきても、ここまで立ち上がれるのですから。

愛情を伝えることは、それは何も恥ずかしいことではないです。家族でも、友達でも、恋人でも、人を愛するということに異性も関係ないです。伝えられる時に伝えてください。そして、伝え続けてください。

それが、私が病気になって知ったこと、病気が教えてくれたことです。それは人生の財産になることです。ということは、私にとって病気は人生の財産であるということです。望んで手に入れたものはないけど、自らの手で、財産にしたものです。だからこれからも共に生きていきます。なるべくしてこの病気になったのでしょうか。そのままの生き方ではいけないと教えてくれたのです。失ったものもありますが、得たものの方が遥かに価値のあるものでした。病気という不幸が様々な出会いを、たくさん価値を、私に教えてくれました。病気になれたことを本当に有難く思います。

(人間科学部二〇二二年度卒業生 小松 万敏)

## 保育士を目指す

私は地元の私立保育所からありがたいことに内定を頂くことができ、四月から保育士として勤務することとなつていきます。私は小さい頃から自分よりも年下の子とも遊んだり、お世話することが好きでしたが、保育士として働きたいとは思っていませんでした。私が保育士を目指そうと思つたきっかけは、二回生の秋学期に履修した人間科学部の「学外子ども支援実習」の授業の一環として、幼稚園でのボランティア実習を経験したことでした。子どもの生き生きとした生命力や、小さなことでも目一杯の感動と一緒に感じることでできたりすることに魅了され、子どもとかわるごとく嬉しく感じ、やはり子どもと触れ合うことが本当に好きだなあと改めて感じました。ちょうどこの頃就職のことについて考えていた時期だったので、私は自分が一般の企業に就職して働いている様子を想像することがどうしてもできま

せんでした。けれども、本当になんの根拠も無いのですが、この実習を経験して、保育士としてなら自分が働いている様子を想像することができました。ただ単純に「子どもの持つ力つてすごい！やっぱ子どもが好き！」と強く感じたことで、保育士を目指すことを決心しました。自分の好きなことを見つけたり、自分に合うことを

職業と結び付けていくことは、生きていくうえでとても大切なことだと思えますが、それを見つけ出すことは難しいと思えます。しかし、どんな経験の中にも、自分の目指す道標になるかけらがたくさんころがっていると思うので、やはり若いうちに様々な経験をしてみることは将来の自分の可能性を広げるためにも大切なことだと感じました。

保育士を目指すことを決心してからは、まず保育士資格の取得を目標にしました。私は、地元から通学していたのですが、通学時間に片道二時間半かかったため、学校内での資格講座を受講することや、資格取得のための学校に通うことなどが難しかったので、ユーキャンで教材を申し込み独学で勉強をし、二年かかってようやく取得することができました。学校の授業を受けながら、資格の勉強をすることが大変で、「保育科の学校に通って

いれば、もつと効率よく資格取得ができたのになあ」と思うこともありましたが、今になると、自分の目指したものに向かって、努力をし、遠回りしたけれど自分の力で手に入れたことが、自分を誇れる自信となりました。保育士の職業は、子どもの命を預かる大変な職業だと思えます。こどもとかかわるだけでなく、その他にもたくさんさんの書類の整理や、保護者とのコミュニケーションなど、他にも様々な仕事があり、「子どもが好き」といつ

た気持ちだけでは、絶対に勤まらないと思います。働き始めてからも、壁にぶち当たることが必ずあると思います。けれども、辛いこと嫌なことがあっても、仕事のなかで、子どもの成長を側で感じることもできたり、子どもと一緒に笑い合えたりする瞬間が少しでもあるのなら、私にとつてとても嬉しいことです。一日でも早く立派な保育士になれるように、自分らしく一生懸命頑張りたいと思います。

つたない文章にもかかわらずに、ここまで読んでくださった皆様、こういった機会を私に与えて下さった先生方に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。

(二〇二四年度人間科学部卒業予定 有本 由衣)

## 「人」というキーワードで始めたバー

昨年の八月、かねてから念願だったショットバーを梅田で始めることができました。そこに至るまでの経緯と私の考えをここに記したいと思います。

学生時代は、キャンプリーダーとして新入生や、周囲のリーダー達と関わる中で、日々人間関係の大切さについて学んできました。就職活動が始まると、自分は今後どのような仕事に就いて、どのような人生を送っていくのかということ真剣に考え始めました。私の中の大切な価値観として「人」に携われる仕事があったため、人と企業を繋ぐ仕事である人材サービスの会社に就職することとなりました。

人材サービスの会社で働き始めて、一年目から三年目までとはある事業のチームに任命されました。車で遠方まで行つて疲弊して帰つてきてはまた仕事という日々が続いていました。もちろん仕事内容自体は大きなミスマッチもなく、非常にやりがいのある仕事で、日々成長しているという実感もあつたため、苦労はしながらも頑張っていました。

しかしながら、いつまでこんな生活が続くのだろうかという漠然とした不安がおそつてきました。高くはないにしてもそれなりのお給料をもらい、会社にも守られ、

休日もしつかりあり、充実しているとさえ言えば充実していました。けれども、日々同じような毎日を繰り返して、五年後、一〇年後の自分は果たして満足しているのだろうかと考えようになりました。サラリーマンである以上、なんらかのしがらみは当然あることで、給料も上がったとしてもたかが知れている。かと言って、転職したとしても、結局は堂々巡りで同じ考えがずっと芽生えてしまうのではないかという懸念もありました。

そうこう考えるうちに、それならばいつぞ脱サラして、自分で仕事をした方がよいのではないかと考えるようになりしました。会社に守られながらそれなりに頑張るよりも、自分が頑張らなくては食べてすらいけないけれど、頑張り次第では天井がないという環境の方が自分にとってはプラスになるのではないかと思うようになりしました。

では、一体自分には何ができるのか、どんな強みをもつてすれば脱サラをしてやっていけるのかと考えた時に、自分にはやはり「人」しかないなという結論に至りました。では、「人」というキーワードで始められるビジネスとは何なのかを模索するようになりました。

そうこう悩みながら仕事をする中で、仕事終わりにバーへ行く機会がちよくちよく出てきました。バーでは、酒を飲みながら気分よくマスターと話したり、普段

は関わることのないような方々と話しをしたりと、日常を忘れられる楽しさがありました。行きつけのバーがでぎ、顔馴染みも増えてくると、いつしかそこが自分にとっての居場所のような感じがしてどんどん引き込まれていきました。

バーの楽しさを覚えてしまった私はこれこそ天職だと思いい、バーを開業したいと思うようになりました。

それからは、働きながら週末にバーの学校へ通い、日々開業の準備を進めてきました。そうして昨年春に会社を退職し、八月に「エスケー・オーシャンズ」というバーを開業することができました。私は学生時代からサーフィンをしており、海が大好きだったため、コンセプトは「海」をテーマとし、都会でも南国の海のようにリラックスしていただけのお店作りを意識しました。

もちろん始めるまではうまくいくだろうか、お客さんに来ていただけなかつたらどうしようなどと不安は尽きませんでしたが、動き出さなければ何も始まらないし、動き出してさえしまえば何とかなるという妙な自信がありました。その自信の裏付けとして、手前味噌ながら、私は友達が変わり多いう方で人徳もあるという自信がありました。自分がしんどい時や辛い時はきつと仲間が駆けつけて助けてくれるだろうと思っていました。実際お店を始めてみて、本当にたくさんの友達に遊びに来ていた

だいており、本当に「友達こそ財産」だなど日々感じています。謙虚さをもって人に感謝し、人から感謝されるように生きていけば、因果応報でなんらかの形でいつか自分に返ってくるものだと思最近になってよく思います。

実際にお店を始めてみて、できなくなつたことや失つたものはないとは言えませんが、それよりもはるかに得るものが多く、今ではあの時の自分の決断を信じて進んできてよかつたと思つています。今は、週末以外は一人で営業していますが、今後はお店を任せられるような従業員を雇つて、波のある日は従業員に任せて、私はサーフィンに行くというような感じでゆるゆるできればなとささやかな夢を抱いています。

最後に一言。人生何があるかは誰にもわかりませんが、どういう人生を送りたいかはつきりイメージすること、自分の人生はある程度自分の思う通りにコントロールできるということを私の経験を通じて感じていただければ幸いです。

#### Bar SK OCEANS

大阪市北区堂山町七一八 伊勢屋ビル2F  
 ○六一六九四〇—四三三二一

営業時間 一八時から五時（L.O四時）

月曜定休（月曜が祝日の場合は翌火曜が休み）

（二〇〇九年度人間科学部卒業 酒井 健輔）

